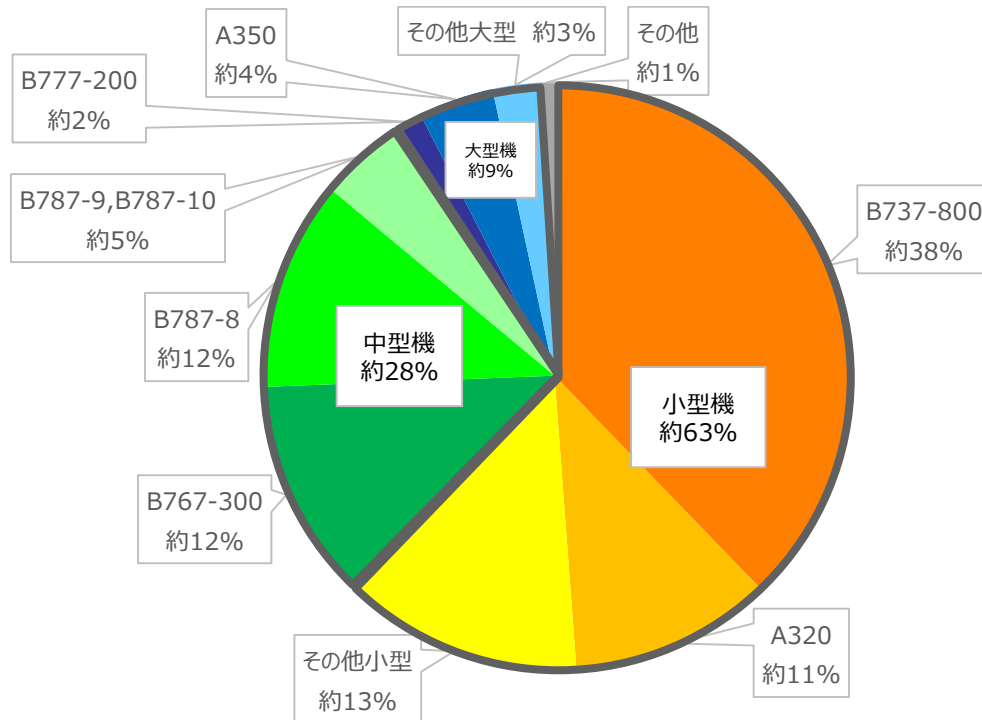


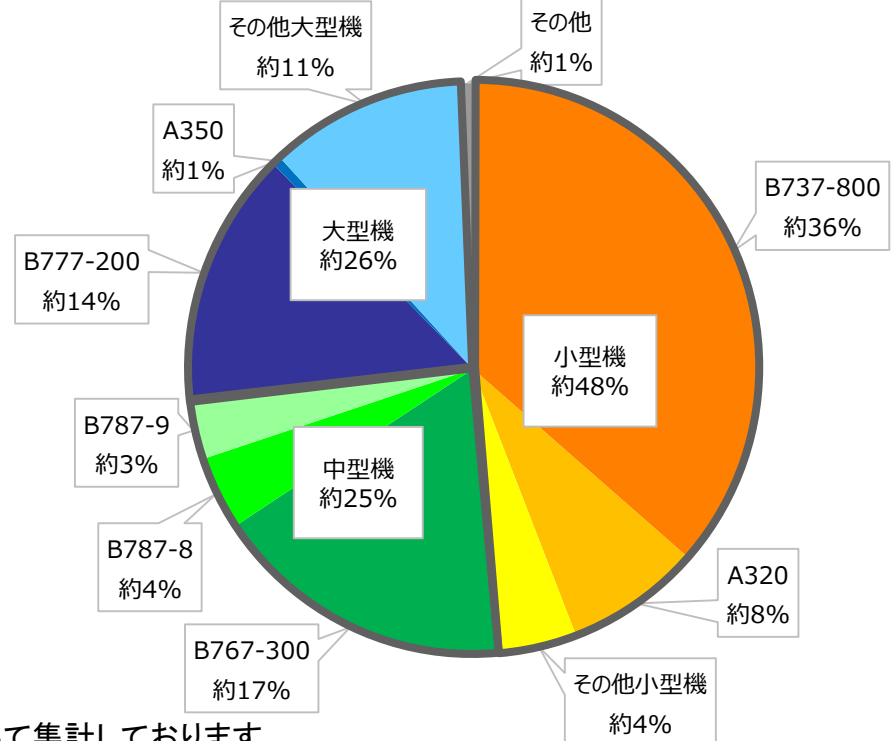
羽田空港就航機種割合(2021年4月1日～2022年3月31日実績)

- 羽田空港の国際線着陸料について、航空機の重量に加え、騒音の要素も組み合わせた料金体系へ見直すとともに、国内航空会社に対して、新型コロナウイルスの状況下において、航空需要を踏まえつつ可能な範囲で騒音の小さな機材を選択することを要請するなど、低騒音機の導入を促進してきた。
- 2021年4月1日から2022年3月31日までにおいては、新型コロナウイルスの影響に伴い、国際線を中心に減便や、その他、大型機から中型機・小型機への機材変更が生じていた。
- その結果、上記期間において、羽田空港を離着陸した航空機の機種毎の割合は、小型機が全体の約63%、中型機が約28%、大型機が約9%であった。
- なお、大手国内航空会社においては、新型コロナウイルスによる影響を踏まえた事業構造改革の一環として、保有機材を見直し、B777(大型機)の退役が進められている。

2021年4月1日～2022年3月31日



(参考)2019年1月1日～1月31日



(※)ヘリコプターを除いて集計しております。